

# 除草剤を用いない漏生イネ対策

## 寒冷地南部での漏生イネ対策にはリーフスターが有効

### 目的と特徴

- 水田輪作地帯における飼料用イネ栽培では、飼料用イネ収穫時に落下した漏生籾由来の個体が、後作の食用イネ栽培において発生することが懸念され、多収品種導入の妨げとなっています。
- イネWCSに適する茎葉型品種「リーフスター」は、寒冷地では極晩生で籾の登熟歩合が低く、子実収量はわずかですが、乾物生産性が高く十分な乾物収量が期待できます。
- 「リーフスター」を導入することにより、作付次年度の漏生個体の発生を抑え、後作の食用品種の玄米への混入リスクを低減することが可能です。

移植栽培：移植後約半月  
条間に多数の漏生イネが発生



乾田直播栽培：播種後約1ヶ月半  
条間に大量の漏生イネが発生



### 漏生イネの発生

- 湛水直播栽培：出穂期
- 稈長の高い漏生イネの穂が多数確認できる



これまでの  
専用品種

漏生個体の籾が登熟し、  
後作の食用品種への  
玄米への混入が懸念！

輪作水田へも  
低いリスクで  
専用品種を  
導入できる！

リーフスター

漏生個体の籾の登熟歩合が  
低く、後作の食用品種への  
玄米混入リスクが低い！

**多収品種の導入で高収量のイネWCSを！**

### 成果

- 「リーフスター」の漏生個体から生じる玄米が食用品種の収穫時に混入するリスクは、極めて低いです。
- 「リーフスター」でも高温年では、漏生個体の籾が登熟して粒厚1.9mm以上になることもありますが、食用品種に混入した場合の混入率は0.5%程度です。

# 「リーフスター」の収穫時の落下粒数

- 飼料用イネ単作体系(標準移植5/17) : 230 粒/m<sup>2</sup>
- 飼料用稲麦二毛作体系(晩植6/3) : 100 粒/m<sup>2</sup>

コンバイン型専用収穫機の体系(ロール放出時と走行時の平均)

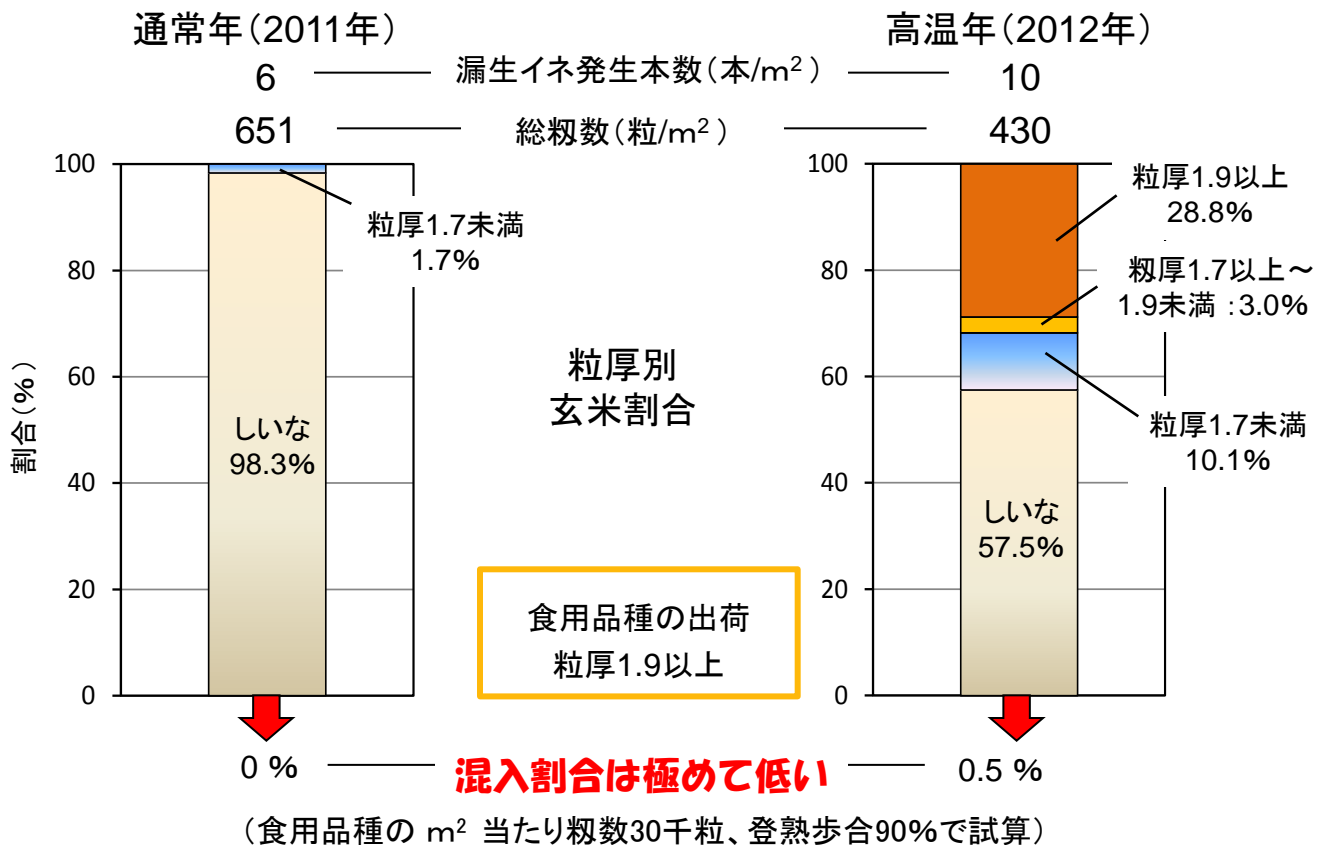


標準移植(実作業)での**2倍以上**の粒が落下したと想定しても...

## 「リーフスター」の漏生イネ発生モデルと玄米混入リスクの試算

春季に「リーフスター」の完全粒を **500 粒/m<sup>2</sup>** 散布した試験

(調査: 食用品種の収穫時期に合わせて9月下旬に実施)



### 対象作物、普及対象

- ・ 水稻、南東北

### 対象農家

- ・ 水田輪作地帯で飼料用イネを栽培したい生産者

### 必要な道具

- ・ 通常の水稲移植栽培に必要な作業機械、飼料用イネ専用収穫機

### その他

- ・ 気象条件によっては「リーフスター」でも登熟することがあるため、後作に食用品種を作付けする場合には、移植栽培を行い、刈取り適期に速やかに収穫して下さい。

(除草剤による漏生稲対策にはプレチラクロールを含む薬剤(食用品種移植栽培)が有効)